第５回登別市総合計画第３期基本計画市民検討委員会育み部会議事録

◆開催日時　　平成２６年７月２２日（火）　１７：３０～１９：００
◆開催場所　　第２委員会室
◆出席部会員　部会長　　安宅　錦也
　　副部会長　川村　正勝
　　部会員　　仲川　弘誓
　　合田　美津子
　　佐藤　文子
　　磯田　大治
　　佐藤　史彦（庁内検討委員会　部会長）
　　【教育部次長】
　　千葉　浩樹（庁内検討委員会　副部会長）
　　【教育部社会教育Ｇ総括主幹】
◆欠席部会員
◆事務局　　上野総務部企画調整Ｇ企画主幹
◆議題　　「第５章　豊かな個性と人間性を育むまち」について

〈部会長〉
それでは、第５回育み部会を始めたいと思います。

〈事務局〉
前回は、第１節の「生涯学習活動の促進」で終了しましたので、今日はその次の「生涯学習環境の充実」から進めていきたいと思いますがよろしいでしょうか。
前回の最後に、庁内副部会長から生涯学習施設とは何かということについて説明してもらいましたが、その中では、明確な定義はないものの、当時としては社会教育施設をイメージしていたのではないかということ、例えば「のぼりん」についても利用の形態によっては、社会教育施設になり得るのではないかということでした。
一方で、生涯学習というのは、あらゆる場所、機会を捉えて行われるものであるので、場所や施設を規定するのは難しく、あまり意味のないことではないかというご意見もいただいたところです。
今日は、そこを起点として、次の「生涯学習環境の充実」から進めていきたいと思いますが、今後の進め方のポイントとしましては、節内の各施策ごとに、提言書としてまとめるためのポイントやヒント、キーワードを一つでも二つでもピックアップできればと考えておりますのでよろしくお願いいたします。

今回の「生涯学習環境の充実」ですが、①～③の３本の施策で体系図が構成されておりますが、今日はこれについて少し掘り下げて考えていきたいと思いますが、ご意見等ございますか。

〈部会員〉

図書館ですが、今度アーニスの中にもできますし、学校図書館の司書配置の関係も努力義務ではありますが、法律改正で義務付けられましたから、そこの部分は必ず盛り込んでほしいと思います。

今は、交付金の絡みもあって何校か掛け持ちでの配置ですから、これを全校に配置できるかどうか。

基本的には、学ぶ環境の充実というのは欠かせないことだと思います。

今後、少子化が進展しようとも、学ぶということは基本であり変わりないものだと思いますが、文化的レベルを最低限維持していくという意味では、まだまだ遅れていて、そこのところも、次の計画にはしっかりと入れていく必要があると思っています。

あと、図書館については改善が進んでいますので、次のステップとしては、電子化や学校図書館との連携などをどう盛り込んでいくのか、というところだと思っています。

ただ、お金のかかることはできないので、そうなると、どこを削って、どこを増やすのかといった議論も全体として出てくるのではないでしょうか。

以前、文科省の学校図書館の資源共有ネットワーク推進事業という事業がありましたが、こういう国や道の制度などをもっとうまく活用すべきだと思います。

岩見沢では、非常にうまくやっていて、図書館司書を１名、学校との間にコーディネーターとして配置し、全学校の検索や選書などお金を掛けずに効率的に行っている。学校の選書と配本を一元化してしまえば効率的に運用できるので、このコーディネーターの配置をぜひ盛り込んでもらいたいと思っています。

〈事務局〉

登別市も小中学校の図書館に学校司書を配置していると思いますが、配置後の状況はどうでしょうか。

〈市庁内部会副部会長〉

現在、司書２名が各学校を巡回しておりまして、まだ始まったばかりですが、貸し出し数が増えたなど、すでに効果が出ている学校もあると聞いています。

〈部会員〉

やはり、学校図書館に人がいないと、子どもたちも集まってこないですから、これを拡げていくことは必要だと思っています。

〈事務局〉
　この学校司書配置事業については、次年度以降も継続実施することと思いますが、配置後１年経って具体的な成果は出ているのでしょうか。

〈部会長〉
　現在２名おりまして、１名を若草小学校と鷲別小学校の２校に配置、もう１名を青葉小学校と幌別西小学校の２校に配置しておりまして、９時から学校に入って昼の貸出が終わる１４時頃に帰るというようなスケジュールです。
　中休みや昼休みに子どもたちと共にいろいろな活動をしており、週２回各学校に来るということになっております。
　入ってからは、子どもたちへの本の紹介や働きかけがあるので、子どもたちも図書館に行って話を聞いたりですとか、自分なりに本を選んだりですとか、まだ半年ではありますが、少しずつ成果が出てきていると感じています。
　あとは、司書の方のアイデアで学校内の図書の配置を変えたり、自ら工夫をして書架の整理を行ったりというようなことを計画して、意欲的に取り組んでいる最中ですので、これが少しずつ拡大して全部の学校に入ってくれるのが理想だと考えています

〈事務局〉
　配置の人数やスケジュールは現在のままで足りていますか。

〈部会長〉
　各学校に１名配置されるのがベストですね。
　ただ、資格を持っている人が少ないという現状で、嘱託ですとか臨時ということもあって賃金面で合わない、それだけで生活というのもなかなか難しいこともあって、他に仕事をしながらという形でなければ、条件が合わないという人が多いのではないでしょうか。
　できれば、そのまま学校に配置の継続をしてもらえるといいのですが。

〈部会員〉
　教育では、人を創っていくというのが基本ですし、継続してやっていかなければならないのではないでしょうか。

〈事務局〉
　学校図書館と図書館の連携については、現在どのような状況なのでしょうか。

〈部会員〉
　臨時職員は２か月休まなくてはいけないと聞いていますが、２か月も休んだら食べていけない。そこを何とかしないといい人材は集まらないし、せっかく育てても次に

つながらない。そこに専門性を要求されても。

〈市庁内部会部会長〉
人材を育成するとなれば長く働いてもらうのが理想です。専門の教育を受けて司書で入ってこられる方というのは、それなりの素地があって対応されると思いますが、臨時で入って育てていくとなると確かに時間がかかります。
ただ、臨時職員の場合は任用期間という縛りがありますので、そこを外してという訳にはいかない。嘱託員であれば５年間ですが。

〈部会員〉
専門性が蓄積されないというのは、人材の面からももったいないし、職員も毎回１から教えるというのは大変だとおもいますが。

〈市庁内部会部会長〉
図書館の場合、臨時職員や嘱託員の募集では司書資格を持った方ということで行っていますが、なかなか人が集まらないですね。

〈部会員〉
待遇面も含めて検討しないとなかなか難しいですね。

〈事務局〉
新しい動きとしましては、アーニスの２階にある情報センターPIP が閉館し、８月１日から新たに図書館分館としてオープンすることになっています。
情報センターの設備や機能はそのまま継承して、そこに書架が入るということになりまして、新しいタイプの図書館として生まれ変わります。

〈部会員〉
長年運動を続けてきてアーニスで目くらましか、とは思いますけれど、やっと、実現したなという感じですし、新館を諦めてアーニスで落ち着かせようとは思っていますが。
食事もできエレベータ、エスカレーターもありますから、お年寄りも利用できますし、アーニスのためにもいいと思います。
広い駐車場もありますから集客効果もあります。

〈部会員〉
可能ならアーニスの２階を図書館にするというのもいいと思いますが。

〈部会員〉
　ただ、全部となると書架は重いので耐震の面でどうでしょうか。今の図書館より悪いということはないと思いますが。

〈部会員〉
　実現できればという前提ですけれども、何十億という費用をかけて新館を建設するよりは、まちづくりという観点からもアーニスの方がいいと思いますね。

〈事務局〉
　次に、主要な施策の考え方として、それぞれに・がありますが、これについて過不足はありますか。

〈市庁内部会部会長〉
　この部分については、第２期の基本計画から変わっているところがありまして、今、庁内の検討部会の中でもかなり手直しをしておりますので、皆さんがお持ちの体系図がそのまま第３期の基本計画になるというわけではありません。
　変えてはいけないということはないのですが、第２期との整合性や継続性ということも考慮して作る必要がありますので、今そこを中心に見直しているところです。

〈部会員〉
　今、図書館では情報化に対応した図書館にするための基盤整備を行っているところなので、この部分については最低限やり遂げて欲しいと思いますし、ほかにも図書館としてやらなければならない部分についても着実に改善していったいるところなので、行政もしっかりとバックアップしてもらいたいですね。

〈部会員〉
　蔵書としては充実しているのですか。

〈部会員〉
　キャパシティがないのでこれ以上は無理ですが、蔵書も新陳代謝を図って構成も徐々に変えていますし、図書館が明るくなったと思います。

〈市庁内部会副部会長〉
　伊達市などとも連携していますし、道立からも予約をすれば貸し出してもらえますよね。蔵書が増やせないのであれば他市と連携して貸し出しを融通し合うなどの取り組みを拡げていくべきだと思いますが。

〈部会員〉
図書館の連携のあり方としては、それぞれのまちの図書館の強みや特色を広く市民に認識をしてもらって、相互検索や広域利用が容易になるようなシステムができればいいですね。
４月からは国会図書館の全件検索も可能になりましたので、こういったものも上手く活用しながら進めていくといいのではないでしょうか。
図書館はいろいろな可能性を持っていますので、まず、市民に利用してもらい借りてもらうことが重要です。
その中で市民の方から様々な意見や要望をいただき、図書館の改善につなげていくというサイクルができるといいですね。

〈部会員〉
検索の精度を高めていくことも利用のしやすさにつながることだと思います。
大学の図書館ではキーワードを入れるだけで関連する図書を検索することができます。
データベースをいかに充実させるかということが重要になってきますね。

〈部会員〉
学校図書館のシステムが図書館のシステムと連携していないのが残念ですね。

〈部会員〉
例えば、図書館に来て、今日はどの本を借りようかな、といった柔軟なキーワード検索にも対応できるようなシステムが理想ですね。
こういう本を借りる、といったような目的を持った検索には問題がないのかもしれませんが。
今はお年寄りまでがスマートフォンを持っているような時代ですから、図書館に行って本を探すまでもなく、携帯から検索して借りたい本を見つけてから図書館に行くということも可能ですから。

〈部会員〉
そういうことは今後 10 年の計画に盛り込む必要があるのではないでしょうか。

〈市庁内部会部会長〉
図書館が目指しているのは、これには載っていませんが、地域を支える情報拠点を目指すということですので、そのために市民の必要とする情報を収集して提供できるようにしようということです。
それは、おっしゃるようにいろいろなものを検索して、具体的に提供できるような形を目指していきましょうということです。

ただ、それを実現するとなると費用等の面でいろいろと検討しなければならないということになりますので、具体的なことを盛り込むのではなく、もう少し大きなところをイメージしていくことになろうかと思います。

〈事務局〉
今のシステムに変わる前は、広域でのシステムその他の連携も図られていませんでしたが、この１０年でそれが実現しました。
これは方向として大きな進歩だと思うのですが、今後もこのように少しずつではありますが一歩一歩前進していくことができれば市民にとっても有益だと思いますが。

〈部会員〉
前進というよりは遅れを取り戻したというところでしょうかね。

〈市庁内部会部会長〉
都道府県などでは、図書館と文書館に分かれていてそれぞれ役割分担が図られています。文書館ではどんどん溜まっていきますから、資料ごとに保存年限を定めていて、それを超えたものについては廃棄するなどして整理が図られています。
図書館は、その前の段階で皆さんが見るようなものを情報として提供する、といったように上手く区分されているのですが、市町村だとそこが一緒になってしまいますので難しいですね。

〈部会員〉
本来なら郷土資料なども集めなければならないのですが、図書館には僅かなものしかなく、これでは50年～100年後はどうなってしまうのか不安になってしまいます。
そういう意味では脆弱な図書館ではありますが、そこにどこまでの機能を持たせていくのかということも今後の課題ですし、それは教育委員会レベルできちんと議論して欲しいですね。

〈部会員〉
図書館のほうで予算要求したものは、教育委員会内部ではどのように反映されるのですか。
図書館を充実させようとすれば、いつかはお金をかけなければならない時期が来ると思いますが、その時にそういうことができる環境にあるのでしょうか。

〈市庁内部会部会長〉
そういう場合は、それを何年で実現しようとするのかといった事業計画を立ててから、庁内で事業の可否についての検討をしていくことになります。その後財政に予算として上げていくということになります。

〈部会長〉
建物の耐震性についてはどうなんでしょうか。

〈市庁内部会副部会長〉
図書館の耐震診断が終わったかどうかは把握していませんが、順番としては、まず学校が最初で次に公共施設となっています。

〈部会長〉
そういう意味では、アーニスのような施設に機能分化を図っていくということも、耐震化という面で考えていく必要があるのかもしれませんね。

〈部会員〉
確かに図書館では、２階以上は階段しか通路がないですから、それが崩れたらもう逃げられないですよね。
ただ、耐震化の問題は他の施設も抱えているわけで、図書館だけ先にということもなかなか言えませんけれど。

〈事務局〉
今、施設の耐震化や老朽化の対策といった話が出ましたが、①「生涯学習施設の確保と充実」の・のところでその部分に触れており、皆さんの話はそこに絡んでくると思いますが、・の部分の内容はこれでいいでしょうか。

〈部会員〉
この・の内容を見ると生涯学習施設を統廃合していくのではなく、すべてを改修しながら維持していくと言っているように読めますが、これからのことを考えると維持するにはランニングコストもかかるわけですから、ある程度の統廃合を進めながら必要なものを改修し維持していくということも考えていく必要があると思います。

〈市庁内部会部会長〉
施設をどうするかという問題は、個別の事務事業だけで判断するのではなく、市全体の問題として今後どうするのか、ということを現在検討しているところですが、部会ではそれとは別に、あくまで教育施設としてどうするのかということを議論していただくことになります。

〈部会員〉
事業評価をやっていて思いましたが、行政の仕事の中で、行政がやるべきことと、そうでないこととの整理は行っているのですか。

〈市庁内部会副部会長〉
事務事業評価というものを毎年行っておりまして、その中で事業の可否についての判断がなされるという仕組みになっています。

〈部会員〉
ただ、これだけ膨大な数の市の事業を、内部だけで判断することは難しいのではないですか。内部からだけでは見えないこともありますから。
以前はスクラップ・アンド・ビルドでしたが、ビルドの部分が難しくなる中で、スクラップの部分の線引きを行政だけでできるのか疑問に思っています。
スクラップしたあとの事業展開をどうするのかという議論を、計画を立てる前に聞きたかったですね。

〈市庁内部会部会長〉
これだけ事業というものがあると、ほかの市や町とも重なる部分が必ず出てきます。行政の仕事というのは、基本的な部分ではそう違いはないですから、そこで合併という話も出てきたりする訳ですけれど、合併というのはそう簡単にできるものではないので、まずできるものから取り組んでいきましょう、というのが広域行政という考え方です。
同じ施設がたくさんあるということは、いずれそれを維持するのが困難になる時期が来ますので、どこかの時点でまとめていかなければならないということを住民の皆さんにも理解していただく必要があると思います。

〈部会員〉
持続可能な地域づくりをどうやって実現していくのかという大きなコンセプトに対し、市はどのように対応していくのかということを今議論していると思うのですが、この部会の中で議論していくのはなかなか難しいことだと思いますので、もう少し解りやすい形でコンセプトを表現できれば良かったのではないかと思っています。

〈部会員〉
これからは、行政だけで老朽化した施設を維持・管理していくのは難しくなっていきますので、民間とのコラボによる運用という考え方が主流になっていくのではないかと思います。

〈事務局〉
そこはキーワードになりそうなところですね。

〈部会員〉

これからは、市民の皆さんが知恵を出して協力していかなければ施設を維持していくのが困難になるということを、市民の共通課題として認知してもらえるよう行政は市民に対し積極的に情報開示していくべきだと思います。

〈事務局〉
時間も少なくなってきましたので、残りの②「生涯学習指導者の育成と確保」に入っていきたいと思いますが、これについてご意見いただけますでしょうか。

〈部会員〉
最初から指導者になりたいという人はなかなか出てこないものだと思います。
まず、環境のないところには人は出てきませんし、そこには①の「生涯学習施設の確保と充実」というベースがあって、それが充実し環境が整ってくる過程の中で、指導者が養成され、次の担い手として育っていくというようなサイクルができることが理想だと思います。
あとは、各スポーツ団体が行っているメンバーシップ制であるとか、何らかのインセンティブがなければ、皆さん専業でやっているわけではないですから、指導者になろうという人はなかなか現れないのではないかと思います。

〈部会員〉
市は人材の発掘を行ったことはあるのですか。

〈市庁内部会副部会長〉
人材発掘については、まず、平成１６年に人材情報バンクというものを作りました。これは、文化からスポーツまで幅広い分野の指導者の方に登録してもらい、それを冊子にまとめて広く市民に周知をし、利用してもらおうというものです。
ただ、それがどのように活用されているかについては、残念ながら把握することができませんが。
あとは、学校支援地域本部事業の中で地域のボランティアを登録してもらって活用を図ってもらうという取り組みも行っています。

〈事務局〉
一般市民の方が、それを知るにはどうすればいいですか。

〈市庁内部会副部会長〉
公共施設に冊子を置いているので、まずそれを見ていただくことになるのですが、教育委員会に直接電話で問い合わせる方の方が多いように感じます。

〈部会員〉

「のぼりん」でも、登録団体数が１７０を超えるまでに増えてきておりまして、先日、各団体からいろいろと話を聞く機会があったのですが、その中では、自分たちのサークルだけで精一杯という声が圧倒的に多く、お手伝いしてもいいという人はほんの僅かしかいないという現状でしたので、これではバンク化などとても無理かなと感じた次第です。

あと、団体数については、実態を把握するために現在調査中です。

今構想しているところなのですが、市民活動だけでなく市内にどんな財産が眠っているのかといったエリアマップのようなものを作れたらいいなと思っておりまして、その中に人材も含まれているというのが理想ですね。

〈部会員〉

こういう人材についての考えというのは、シルバー人材センターとも繋がるような気がしますが。大きな便利屋さんのようなイメージですね。

〈部会員〉

元気でやる気のあるお年寄りをピックアップして、戦力として有効に働いてもらうといった仕組みを作っていくことが、これからの時代のキーワードになると思います。

〈事務局〉

退職された方を含めて、休眠中の高齢者の方を戦力としてうまく活用できるようなシステムを官民が協働で作り上げて、場の提供を図っていくことが、これからのキーワードになりそうだということでよろしいでしょうか。

時間もなくなりましたので、次の部会の進め方についてですが、第１節についてはこれで終わってよろしいですか。

〈部会長〉

これまで２回にわたって第１節を議論してきましたが、まだ発言し足りないなど不足な部分がなければ、次回は第２節から進めていきたいと思いますが、皆さんいかがでしょうか。

では、次回は第２節からということでお願いします。

〈事務局〉

次回は８月１８日（月）、第２委員会室で１７時３０からとなりますのでよろしくお願いいたします。